

「ねんきん越谷」 300号記念 座談会



司会 「ねんきん越谷」300号記念の座談会にお集まりいただきありがとうございます。

座談会の参加者は、3代目支部長の飛山幸夫さん、5代目の宇佐美忠利さん、6代目の吉田健治さん、またその当時一番年長で執行委員としてやってくれた大野幸男さんの4人に参加していただきました。

年金者組合が今後どういう活動をしていけばいいかということについて、この間の年金者組合の活動を振り返って皆さんのご意見をお聞きたいと思っています。



飛山 労働組合は全国的にどこも伸び悩んでいる。

あまり闘わないので、賃上げもできない、ストやなんかもあまりやらないということ。組合員が減ってきている。

そういう点では年金者組合はすごく元気でいろんな活動をやってきた。人数も減っていないし、越谷の民主運動での役割は大きかった。

「民主市政の会」も年金者組合から出しましたし、「越谷9条の会」も年金者組合が中心になってきた。今、毎週金曜日にやっている「さよなら原発」の越谷連絡会もあり、年金者組合はとにかく楽しい事やってきました。年4回の誕生会、新年会、花見、暑気払い、芋煮会とこれだけきちんとした活動ができています。団体は今ありません。それは今まで年金者組合の執行委員のみなさんがよく頑張っていたという事で感謝したい。



宇佐美 今労働組合が活発に活動できない中、年金者組合も11万人いたのが10万5千人に減ってきている。

ここ数年間、年金者組合としてはこれをするかという事が大きな課題です。この原因はコロナがいちばん大きいと思いますが、それと組合員がかなり高齢化している。それと役員も高齢化しているということにあると思います。

大野 当時、われわれの世代でこういう活動しようという人は安部闘争の後、国鉄、炭鉱、沖縄とかの活動をやってきた人が多かった。年金者組合もそうだが、そういう活動をしてきた人が少なくなった。

活動を支えた「各種行事」



吉田 年4回の誕生会ですが、10年ちよつと前から今の4大行事になった。それまでは蒲生交流館1か所何で

もやってきた。それは蒲生交流館では無料で飲食が自由にできたからだ。

市の公共施設では飲食がダメになったし、有料になった。それで4大行事に変更した。それでも仲間づくりにいい影響を与えた面もあった。4つの地域に分かれるから、いろんな人が参加できた反面、遠くの人が参加しにくいという面もあった。

コロナがあつてこの4年間4大行事がでなくなってきた。

どうしたらいいか支部で考えて、屋外の活動で何とかできないか考えて、考えたのはレクリエーション大会。

レクリエーションといってもグラウンドゴルフ、ウォーキング、折紙教室、おしゃべり会、前回からポッチャとかいろいろ考えながらやっていく。

司会 結成時は18名、この間の仲間増やはどうやってきたか。

吉田 昔は労働組合活動をしてきた人が年金者組合に入ってきた。

最近では労働組合活動をしてこなかった人が入ってきているということが増えた要因かな。そのかわり増えることも、増えるが減るのも多い。

飛山 大野さんが助け合いボランティアをやってきたがこれは大きかった。年金者組

合のおかげで助かっている人がいっぱいいる。いろんな事で手伝ってもらえるから。



大野 準備金1,800万円のお金を集めるのが大変だった。今、余るくらいに余裕ができてきているようだが、管理費もとらなくなったし、これだけ条件の良いところは少ないですね。

宇佐美 東部南ブロックの共同墓所で、今申込が140人を超えている。

飛山 組合員がふえるのは楽しい事をするのがいいと思う。

機関紙を見ているとカラオケがすごい。やはり楽しいことは皆好きなんだ。

大野 コロナが収まれば参加者がぐっと増える。

宇佐美 組合員を増やすという点について共済が、助けあいという意味で大切なことで、共済で組合に入るといふ人もいます。

これからは共済の活動も大事にしていくといひかなと思います。

飛山 昨年、自転車事故を2回やった、2度とも自転車の保険がでた。

年金者組合というのは年寄りばかりだから、自転車事故は起きますよ。自転車事故で保険に入っている人が助かったという人はいっぱいいますよ。

宇佐美 自転車に乗っていて転ぶ人は多い、支部にも請求が多い。

今後の支部活動について

司会 これからの支部の活動をどの様に進めていくか。

飛山 以前は、労働組合を経験した人、労働組合が必要と解っていた人が加入してきた。今、労働組合活動らしい活動をやっているところが非常に少ない。

そう言う点ではこれから加入者を迎えるには、楽しい(あそこに行く楽しい)ということが絶対必要。

楽しい事をいっぱいやって宣伝する事がいちばんのポイント。

後は高齢者の要求「補聴器購入補助」「共同墓」等要求を一緒に実現し頑張る人を増やす事が大事。

宇佐美 年金者組合中央本部が作っている加入のチラシ「楽しくなくては」が合言葉、楽しい事をやれば人は集まってくると思う。

吉田 越谷支部では一昨年から「補聴器購入補助」の問題に取り組んできた。

「署名活動」「対市交渉」「市長個人面談」など。

この前年金者組合として450筆の署名を直接、福田市長に渡して、補助金を予算化して欲しいと要請して実現できた。

大々的に「ねんきん越谷」で宣伝し、仲間作りに繋がっていいかと思っている。何十万円もする補聴器なのでこれからが大変。3万円の補助だが、助成をして欲しい人がいないと活かせない。

宇佐美 私も補聴器を欲しいので予算化されたら申請したい。今県本部で力を入れてるのは補聴器の公的助成と公共交通(ディマンドタクシー、バス)、この二つは政策部で一所懸命運動化しようとしている。

飛山 公共交通の件、臨時バスやタクシー共済券発行など色々なやり方がある、ようやく越谷でも前向きに動き始めている。

3月22日から三日間、増林センターの多目的ホールで説明会をやった。

宇佐美 バス方式とディマンドタクシー方式など色々なやり方がある。

越谷の皆さんの要求に合った様な中身にして実現する運動にする。

「共済」運動の前進を

司会 「共済」の問題の運動を進めて行くにはどの点が大事ですか。

宇佐美 共済は埼玉県は全国的に見てかなり進んでいる。

まだまだ共済について行事スポットとか交通災害共済が主力になっているが、火災共済について広げて行く必要がある。

掛け金が本当に安いので、しかも今後は地震についても全労連本部の方で協議をしていたが、これからは火災共済に入ってい